

[成果情報名] 長期収穫ができる多収な「三重なばな」晩生系統

[要約] 「三重なばな」の晩生新系統は、抽苔時期が遅いことから従来の早生系統に比べて一ヶ月程度、収穫期間の延長が可能で3月末から4月上旬まで収穫ができる。3月の収穫量が非常に多いことから、総収量も4割以上増加する。

[キーワード] 三重なばな、晩生系統

[担当] 三重県農業研究所・野菜園芸研究課

[分類] 普及

[背景・ねらい]

「三重なばな」は、全国一の生産量を誇る本県の伝統野菜である。主に栽培されている早生系統および中生系統は、収穫が3月上旬までに終了するため、収穫期間の延長が可能な系統が求められている。そこで、在来系統から3月末から4月上旬まで収穫が可能な晩生新系統を三重なばなブランド化協議会と共同で選抜した。

[成果の内容・特徴]

1. 晩生系統は、抽苔時期が遅く3月末から4月上旬まで収穫が可能で、主力系統である早生系統より約一ヶ月間収穫期間が延長することができる（表1）。
2. 晩生系統は、気温の高い3月以降に何度も収穫でき、収穫量が非常に多いことから、早生系統、中生系統に比べて総収量は4割以上増加する（表1、図1）
3. 晩生系統の収穫終了時期は定植日による違いはなく、収量を確保するためには9月中下旬に定植を行う。
4. 晩生系統の側枝の茎の太さは、早生系統並で中生系統より太い（表2）。葉色は早生系統、中生系統よりやや浅いが、食味、外観ともに優れており、「三重なばな」の出荷基準を満たしている。特に3月以降の高温期の貯蔵性に優れ、収穫後の腐敗は早生および中生系統よりも少ない。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験はセル苗を用いた試験であり、育苗を育苗床で行い大苗を移植する場合は、定植時期（移植時期）が異なる場合がある。
2. 晩生系統は、肥切れすると抽苔時期が早まる上、茎葉にアントシアニンが発生して商品価値を損なうことから、第1回目の側枝収穫以降に適宜追肥を行う。
3. 3月以降の高温期は収穫間隔が狭まり収穫量が大幅に増加するため、労働力の確保に留意する必要がある。
4. 種子は三重なばなブランド化推進協議会が採種したのものを用い、黒腐病予防のため種子の温湯消毒を必ず行う。

[具体的データ]

表1 定植日別にみたナバナ各系統の月別収穫回数と最終収穫日

年度	定植日	系統	摘心日	月別収穫回数						最終 収穫収穫日*
				11月	12月	1月	2月	3月	4月	
2014	9/19	早生	10/28	1	1	1	2		5	2/25
		中生		1	1	1	2		5	2/25
		晩生		1	1	1	2	2	7	3/30
	9/29	早生	11/14		1	2	1	1	5	3/2
		中生			1	2	1	1	5	3/2
		晩生		1	2	1	3		7	3/30
	10/14	早生	12/9			1	1	1	3	3/10
		中生				1	1	1	3	3/10
		晩生			1	1	2	1	5	4/2
10/23	早生	12/26			1	1	1	3	3/11	
	中生				1	1	1	3	3/11	
	晩生			1	1	2	1	5	4/2	
2015	9/15	早生	10/20	1	1	1	1	1	5	3/4
		中生	10/23	1	1	1	1	2	6	3/11
		晩生	10/23	1	1	1	1	4	8	3/28
	9/30	早生	11/10	1	1	1	1	1	5	3/8
		中生	11/12	1	1	1	1	1	5	3/8
		晩生	11/12	1	1	1	1	4	8	3/31

* 三重なばな出荷基準から判断した最終収穫日。抽苔した側枝の花蕾が伸長し、新葉より上に位置するようになった場合に収穫終了とする。

** 栽培概要: 定植128穴セル苗、株間35cm、2条植え、施肥量 2014 N 42kg、P₂O₅ 37kg、K₂O 34kg、2015 N 42kg、P₂O₅ 36kg、K₂O 33kg(2014、2015とも追肥分を含む)。

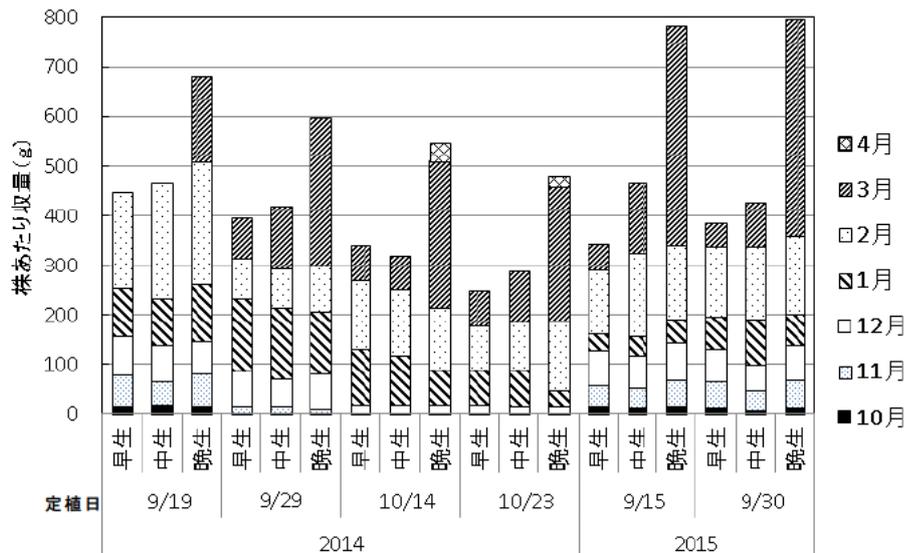


図1 定植日別にみたナバナ各系統の月別収量

表2 各ナバナ系統の側枝の太さと出荷調整後の茎葉重量

系統	側枝の太さ	出荷調整後の茎葉重(g/本)*	
		9月19日 定植	9月29日 定植
早生	太い	10.3	10.2
中生	中	10.0	10.0
晩生	太い	10.2	10.6

* 三重なばな出荷基準に基づき、収穫調整した茎葉の平均重量(2014年)。

(戸谷孝)

[その他]

研究課題名: 三重ナバナの優良系統選抜

予算区分: 共同研究 研究期間: 2014~2015年度

研究担当者: 北村八祥・小堀純奈・丹羽千紘 発表論文等: なし